

事業所名

こぱんはうすさくら横浜いずみ教室
(児童発達支援)

支援プログラム (参考様式)

作成日

7 年

3 月

1 日

| | | | |
|-----------|--|--|------------------------|
| 法人(事業所)理念 | 社会に出て行かれるように、社会に出た時に困らないように、困ったときに助けを求められるようにコミュニケーション能力の向上 | | |
| 支援方針 | 色々なプログラムに参加することで、苦手を少なくし、勇気のある行動ができるように他者と仲良くできるように支援していく。 | | |
| 営業時間 | 10 時 00 分から 17 時 00 分まで | 送迎実施の有無 | あり なし |
| 支 援 内 容 | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | 身辺自立を促し、持ち物の管理、身だしなみ、清潔の保持が自立するように支援していく。 食事の準備や片付け、お部屋の掃除等促していく。ごみは拾う(またいで素通りしない) | |
| | 運動・感覚 | 体幹トレーニング・様々な運動の経験と体感。爽快感を得られるように。 アレルギー(アセスメント時に必ず確認する)がないことを前提に、色々な感触遊び・自然と触れ合うきかいをつくる。 | |
| | 認知・行動 | 自分の頭の中に浮かぶ考え(認知)感じる気持ち(感情)体の反応(身体)振る舞い(行動)。日々の出来事によって感じるストレス反応を会話の中や注意深く観察することでお子さんのストレスのパターンにいち早く気づき、喜びや達成感のあるプログラムを行い、セルフコントロール(その場から離れる・深呼吸をする・日記を書く・誰かに助けを求める等)ができるように促していく。 | |
| | 言語 コミュニケーション | 挨拶の習慣化・読み聞かせやペープサートによる良い言葉を多く職員が発しつなげていく。喃語でもお子さんの話を聞き返事をし言葉を発することへの自信をつける。 他者の存在を認められる支援をし、コミュニケーション能力の向上を目指す。 | |
| | 人間関係 社会性 | 悪い言葉を使ったり、やりすぎると仲良くなれないことを伝えていく。無視はいけないこと等をプログラムに組み込んでいく。 社会のルールやマナーを外出や他教室や知らない人達の中に入ることで学んでいく。 | |
| 家族支援 | 家族ごとにあった支援をしていく。 | 移行支援 | 必要時随時 |
| 地域支援・地域連携 | 教室の外周の掃除や挨拶。地域の小学校のこども100当番に登録。相談支援事業所のある「かがやき」の行事に参加。地域行事に参加する。 | 職員の質の向上 | 1/月 研修 全体研修 外部研修 |
| 主な行事等 | 季節行事・誕生日会・外出 | | |

事業所名

こばんはうすさくら横浜いずみ教室
(放課後等デイサービス)

支援プログラム (参考様式)

作成日

7

年

3

月

1

日

| | | | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------------|--|---|----|-----|----|---|---------|-----|------------------------|----|----|
| 法人(事業所)理念 | | 社会に出て行かれるように、社会に出た時に困らないように、困ったときに助けを求められるようにコミュニケーション能力の向上 | | | | | | | | | | |
| 支援方針 | | 色々なプログラムに参加することで、苦手を少なくし、勇気のある行動ができるように他者と仲良くできるように支援していく。 | | | | | | | | | | |
| 営業時間 | | 10 | 時 | 00 | 分から | 17 | 時 | 00 | 分まで | 送迎実施の有無 | あり | なし |
| 支 援 内 容 | | | | | | | | | | | | |
| 本人 支 援 | 健康・生活 | 身辺自立を促し、持ち物の管理、身だしなみ、清潔の保持が自立するように支援していく。 食事の準備や片付け、お部屋の掃除等促していく。ごみは拾う(またいで素通りしない) | | | | | | | | | | |
| | 運動・感覚 | 体幹トレーニング・様々な運動の経験と体感。爽快感を得られるように。 アレルギー(アセスメント時に必ず確認する)がないことを前提に、色々な感触遊び・自然と触れ合うきかいをつくる。 | | | | | | | | | | |
| | 認知・行動 | 自分の頭の中に浮かぶ考え(認知)感じる気持ち(感情)体の反応(身体)振る舞い(行動)。日々の出来事によって感じるストレス反応を会話の中や注意深く観察することでお子さんのストレスのパターンにいち早く気づき、喜びや達成感のあるプログラムを行い、セルフコントロール(その場から離れる・深呼吸をする・日記を書く・誰かに助けを求める等)ができるように促していく。 | | | | | | | | | | |
| | 言語 コミュニケーション | 挨拶の習慣化・読み聞かせやペープサートによる良い言葉を多く職員が発しつなげていく。喃語でもお子さんの話を聞き返事をし言葉を発することへの自信をつける。 他者の存在を認められる支援をし、コミュニケーション能力の向上を目指す。 | | | | | | | | | | |
| | 人間関係 社会性 | 悪い言葉を使ったり、やりすぎると仲良くなれないことを伝えていく。無視はいけないこと等をプログラムに組み込んでいく。 社会のルールやマナーを外出や他教室や知らない人達の中に入ることで学んでいく。 | | | | | | | | | | |
| 家族支援 | | 家族ごとにあった支援をしていく。 | | | | | | 移行支援 | | 必要時随時 | | |
| 地域支援・地域連携 | | 教室の外周の掃除や挨拶。地域の小学校のこども100当番に登録。相談支援事業所のある「かがやき」の行事に参加。地域行事に参加する。 | | | | | | 職員の質の向上 | | 1/月 研修 全体研修 外部研修 | | |
| 主な行事等 | | 季節行事・誕生日会・外出 | | | | | | | | | | |